

令和4年度  
石狩浜海浜植物保護センター活動報告  
(案)



石狩市環境市民部  
石狩浜海浜植物保護センター

## 目次

事業概要	1
事業方針及び位置づけ	2
令和4年度事業計画	
I. 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる	3
II. 生物多様性の保全・データの蓄積	5
III. 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる	6
活動報告	
I. 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる	7
II. 生物多様性の保全・データの蓄積	18
III. 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる	22
利用状況	24
調査報告一覧	26
海浜植物等保護地区	28
沿革	29

## 事業概要

石狩浜海浜植物保護センター（以下、「保護センター」）は、将来にわたって自然豊かな海辺環境を残していくため、石狩浜の海浜植物群落を基盤とする海浜生態系の保全を目指し、海岸利用者や市民への普及啓発、海浜生態系や海岸利用に関する調査研究、植生の保護・回復対策などに、市民、研究機関と協働で取り組んでいます。

保護センターは平成12年にオープンし、平成29年度から4年間に渡り、一部運営委託をNPO法人に委託しました。令和4年度も引き続き、市直営の運営で、施設の一部であるハマナス再生園や石狩浜海岸草原保全に係る手法の検討を合同会社いしかり植物ラボに委託する体制で始動しました。

令和4年度の主な取り組みとしては、石狩浜の自然情報の発信、植生データに基づいた観察園の整備、環境学習利用促進に関する体制整備、ハマナス再生園を活用した海浜植物とのふれあいの場作り、自生地の植生モニタリング、希少種イソスミレやハマボウフウの生育状況調査、その他にも地元活動団体と一緒にハマボウフウについて参加型調査の実施や、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と共催ではまなすフェスティバルを開催いたしました。

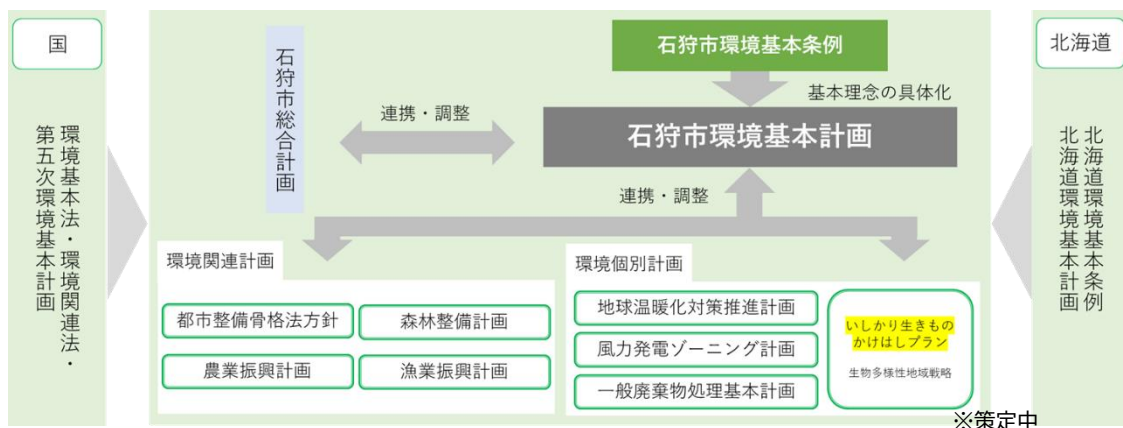
日常としては、令和2年から続く新型コロナウイルス感染拡大防止のために館内の消毒・換気については引き続き行うとともに、館内の収容人数に合わせた混み具合を表示することで3密の回避・感染防止に努めました。また、令和3年秋からドクガの発生が増えており、保護センター敷地内でも大量に確認されています。ドクガの毒針毛による皮膚炎などの被害もあることから、来館者が安心して見学できるようにドクガ注意のサイン表示・直接駆除をできる範囲内で取り組みました。

## 事業方針及び位置づけ

表：石狩浜海浜植物保護センター事業方針

事業方針	事業概要
I 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる	【自然情報発信・体験学習事業】 海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の上と郷土愛の醸成を図る。
II 生物多様性の保全・データの蓄積	【調査・研究・保全事業】 情報発信・体験学習に必要な自然情報のみならず、観察園・再生園の整備に必要な現地情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。
III 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる	【資源活用の基盤整備事業】 持続可能な範囲内で海浜植物を活用していくことで、海浜植物と関わる郷土文化の継承や、多様な主体が保全に関わる基盤の構築。

保護センターは石狩市環境基本条例及び石狩市海浜植物等保護条例、石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、海浜地に生育する海浜植物を基盤とする生物の多様性を保全し、自然環境の保全に関する意識の普及啓発を図ります。また、現在策定中のいしかり生きものかけしプラン（石狩市生物多様性地域戦略）の中に個別アクションプランとして位置づける石狩浜の自然環境保全のための行動計画として位置づける「石狩浜アクションプラン」の方針にも合わせて進めていきます。



図：石狩市環境基本条例との関係性について

令和4年度事業計画進捗概要

I. 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる

	項目	目的	R4 年度目標・達成目標		R4 年度評価・到達度	
① 保護センター館内	1. 常設展示の維持管理	石狩浜の基本的な情報、海浜植物の生態的な特徴について、来館者に分かりやすく伝える。	現状の展示物に対するこまめな修繕・補修。アクションプランに合わせて、内容の見直し、課題出し抽出。	→	常設展示の軽度な修繕を繰り返し日常で実施。アクションプランに合わせて内容の検討が必要になるため、R4、5年度にかけて内容の精査を継続して実施する。	→
	2. フィールドマップ、開花情報の情報更新	石狩浜や観察園の状況について、常設展ではできない新しい情報について来館者に伝える。	調査写真や、観察園の開花情報、観察園の様子などを随時更新（目安として月に1度）。	→	フィールドマップの更新については、調査のある時期に偏って更新がされたため、運用の見直しをする。	↘
	3. 調査研究報告、学習報告等の掲示	研究現場での調査や実験について、来館者に情報を発信し、石狩浜の新しい一面を知る場として設置。	年間1～2団体から、石狩浜に関する研究内容のポスターを掲示する。	↑	R4年度は地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 による植生再生についてのポスターを展示。次年度以降も引き続き実施に取り組む。	→
② 観察園	1. 園路および表札の整備・維持管理	来館者の安全に、海浜植物を見学できるような整備の維持と、展示と連携して来館者が個々に観察できるような必要最低限のサイン設置。	観察に適した施設の維持管理。必要に応じた修繕の依頼。最低限のサインの表示。	→	適宜修理・点検・修正の実施を日常業務にて実施した。また R3 年秋からのドクガ発生に伴い、来館者への掲示に合わせて駆除等の業務も小まめに実施した。	→
	2. ゾーンの目的に沿った植生維持管理	【全体】 現地の植生調査をもとに、展示内容と連動した植生遷移をコンパクトに再現。その他、海浜植物の育成手法について知見の蓄積。 【再現区】 外来種の少なかったデータを参考に後浜からカシワ林までの再現。	【全体】見本植生区のデータを参考に植生を近づける。必要に応じた外来種、内陸性植物の除去。「ほりほりゾーン」の利用促進。 【再現区】 小まめな外来種、内陸性植物の除去。	→	日常的に再現区を中心に外来種の除去、目標に合わせた植物の間引きや移植を実施。翌年のハマナスの状態を加味した古枝の選定や、表土の剥ぎ取り等も行った。 また、湿地植物の生育状態があまり良くない状態が見られたこと、現地の状況との乖離が見られたことから、植物の掘起こしを実施。	↑
③ ハマナス再生園	1. 体験学習やイベントを想定したハマナス再生園の整備・維持管理	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの再生事業の一環として、ハマナスの生育手法及び、効果的な維持管理手法の検討。その他、市民活動を盛り込んだ維持管理手法の実施と継続。	環境の整備・再生園の維持管理（委託業務）。ハマナス協議会と連携した事業の展開。	↑	業務委託により再生園の維持管理、活用を引き続き実施。本年度より自生地の情報を取り入れながら植生を管理した。	↑
	2. 市民参加によるハマナス再生園維持管理「ハマナス Healthy タイム」の内容充実（ミニレクチャー・ポストカード配布等）		市民参加型で普及啓発と維持管理を引き続き実施（委託業務）			
④ 環境学習	1. 事前学習の補助	市内教育機関からの依頼が多様化していることから、学習の目的と所用時間を設定し、アクティブラーニングを主体とした石狩浜の授業内容の構築。	継続、新規団体が参加しやすいように積極的な周知の実施。昨年度の反省を反映した取り組みの実施。	↑	のべ9件13回の環境学習の実施があった。近年ではかなり多い件数であり、持続した事業の受け入れができるように、内容の見直しと発信に力を入れる。	↑
	2. ワークシート・体験プログラムの構築					

	項目	目的	R4 年度目標・達成目標		R4 年度評価・到達度	
⑤ 来館者のニーズ、意識把握	1. アンケートの実施	来館者からの意見を聞く機会の創出。	来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。	→	52 枚のアンケート結果で得た意見や感想についても受け止め、引き続き来館者の利用に向けて取り組む。	→
	1. ホームページ維持管理 2. 情報誌の発行 3. 調査研究等報告会の開催 4. 近隣施設での情報案内	石狩浜の自然について、広い層への普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。	海浜植物の開花や、保護センターでの出来事を発信。興味を持ってもらうための内容作り。	→	本年度は館内の開花情報に合わせてホームページの更新を実施した。次年度も引き続き遠隔地へ向けた情報の発信もしていく。合わせて情報誌も年に6、9、2月（予定）の3回発行した。一方で新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により報告会等の実施が環境課事業との連携になっていることが多く、市民への還元の仕方については要検討。	→
5. CISE ネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を主に、石狩浜及び保護センターについて積極的な PR。					

II. 生物多様性の保全・データの蓄積

	項目	目的	R4 年度目標・達成目標		R4 年度評価・到達度	
① 現植生・生物相の把握	1. 自生地における見本植生の選定と植生調査（海岸草原保全手法の検討）	観察園のエリアごとの管理に必要な現地情報の収集	委託に合わせて調査を実施し、結果から今後の対策に向けて考察する基礎データとする。	→	本年度設定した見本区の植生調査の実施。植生調査のデータをもとに、植生再現区の種構成を検討した。	→
	2. 観察園・再生園の植生調査（海岸草原保全手法の検討）	見本となる現地植生との比較に必要な情報のモニタリング				
	3. イソスミレの生育状況把握	イソスミレの生育状況の把握	過去の調査や他の調査からのイソスミレの分布をまとめ、生育地をデジタルデータ化していく。	→	保護地区内外で生育が確認されている場所の位置と、状況の確認をした。合わせて過去のデータと重ねて現状の推移を記録した。	→
	4. ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握	採取圧や保護区外における生育状況の把握	参加型調査と合わせて現地のデータを比較する。	→	保護地区内外でいくつかのプロットを設置し、プロット内での生育状況調査を実施。花卉・種子の有無などを記録し、繁殖状況を確認した。	→
② 植生管理に係る手法の検証	1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力	海浜植生の再生手法の検討（主催：道総研）	昨年同様目標区の調査を実施	→	植生調査の協力（委託業務）	→
	2. ハマナス再生園・観察園における自生地植生再現及び効果的維持管理手法の検証（海岸草原保全手法の検討）	自生地の状況を踏まえて、より自然に近い状態で維持できるような管理手法の検討。	自生地との環境の違いも考慮しながら、海浜植物の特徴を生かした植生維持の手法を検討する。	→	見本区のデータを参考に、除去・播種・移植を実施した。観察園内と自生地では自然状況が異なるため、生育のしやすい種の偏りが生じやすい。生育手法の検討と、発芽しにくい種の苗づくりについて引き続き知見を蓄積する必要がある。	→
③ 資料・データの集約・管理	1. 標本・調査記録・自然情報にかかわる収集・管理	センターに保管している標本の維持管理、調査の記録や報告書の集約	保護センターの施設状況に合わせた状態維持	→	日々の湿度管理を行い、閉館後に除湿剤の交換と状態確認をした。	→
④ 外来種対策	1. 生育状況把握、範囲・手法の検討、対策実施	石狩浜の環境変化等の状況把握	他部署との連携した情報の共有と、モニタリング調査のデータから新しい情報の収集、必要に応じた対策の実施	→	環境課事業での防除事業における普及啓発を、館内の掲示を活用して実施。合わせて他機関からの駆除要望から駆除の実施。	→
⑤ 保護地区の利用状況把握・監視・啓発・維持管理	1. 車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	海浜植物等保護地区の維持管理	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度立案・実践する。	→	監視員業務内で保護地区のロープ修理他、単管の維持管理の実施。	→
	2. 単管柵の維持管理					
	3. はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	公園（観光地）としての景観保全	アクションプランの考え方に合わせて、他部署に渡る情報の共有と対策を考える	→	アクションプランに合わせて要検討のため、次年度以降に小規模での実施を検討する。	→

Ⅲ. 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる

	項目	目的	R4 年度目標・達成目標		R4 年度評価・到達度	
① ふれあい地区の ルールの普及	1. ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査	ふれあい地区の本来の意味である持続可能な活用を目指すために、地元を中心に海浜植物や自然とのふれあいを進める。	ハマボウフウを基軸に、伝統文化の継承とふれあい地区そのものについて普及啓発。	→	他団体等の協力を得ながらイベントの実施。引き続きの実施が必要であるため、次年度以降も継続して開催をする。	↑
② ハマナス再生園の 利活用	1. ハマナスを活用した普及啓発	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの普及・啓発事業の一環として、ハマナス再生園のハマナスを活用した石狩浜の自然環境の PR、持続的可能な利用と保全を目指す。	花卉・果実の利活用による、石狩浜の PR、普及啓発	↑	今年度は、はまなすフェスティバルの開催により例年よりもハマナスを通じた石狩浜の普及啓発が実施できた。引き続き協議会とともにハマナスを通じた取り組みを進める必要がある。	↑



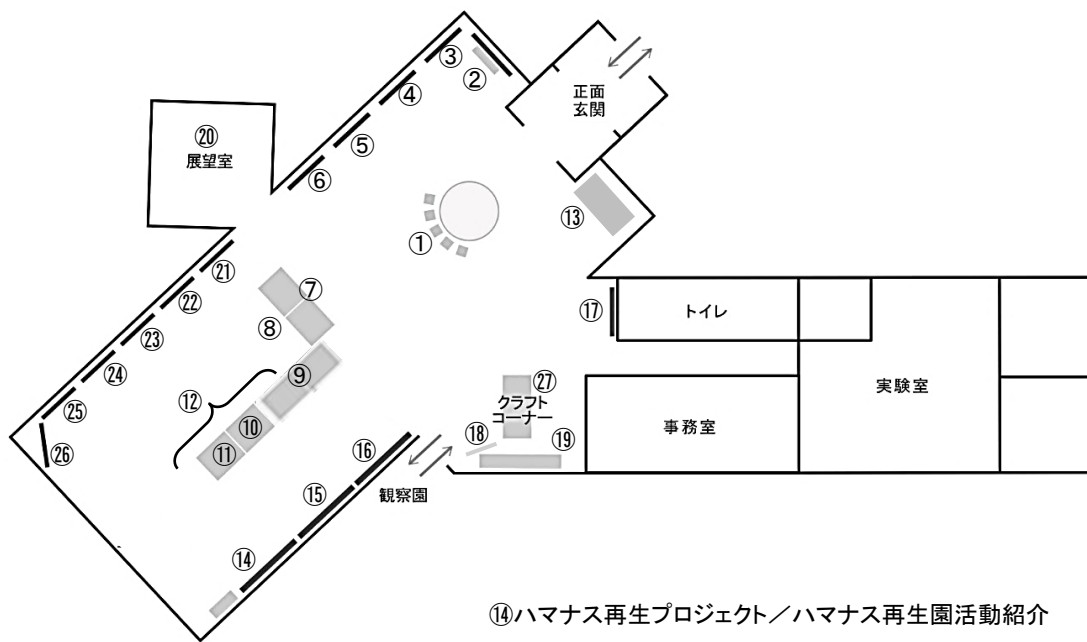
# 活動報告

## I. 情報・学び・体験の場としての施設機能を充実させる

### ①保護センター館内

項目	目的
1. 常設展示の維持管理	石狩浜の基本的な情報、海浜植物の生態的な特徴について、来館者に分かりやすく伝える。
2. フィールドマップ、 開花情報の情報更新	石狩浜や観察園の状況について、常設展ではできない新しい情報について来館者に伝える。
3. 調査研究報告、学習報告等の掲示	研究現場での調査や実験について、来館者に情報を発信し、石狩浜の新しい一面を知る場として設置。

### 《展示室概要図》



- ①石狩浜の成り立ち
- ②保護地区情報/海浜植物保護のあゆみ
- ③生きものごよみ
- ④フィールドマップ(随時更新)
- ⑤石狩浜の地形
- ⑥全国の海岸砂丘
- ⑦石狩浜の地形と海浜植物
- ⑧季節のトピック/海浜植物の紹介
- ⑨石狩浜の生態系模型
- ⑩石狩浜に暮らす生き物のつながり
- ⑪石狩浜の生きもの
- ⑫引き出しクイズ(休止)
- ⑬掲示コーナー/アンケート

- ⑭ハマナス再生プロジェクト/ハマナス再生園活動紹介
  - ⑮お知らせ情報コーナー
  - ⑯保護センター観察園情報
  - ⑰イベント情報ボード
  - ⑱観察園みどころボード(随時更新)
  - ⑲図書コーナー(休止)
  - ⑳眺望できる山のイラスト(展望室の窓)
  - ㉑不安定帯-後浜の植物
  - ㉒不安定帯-第1砂丘前面の植物(1)
  - ㉓不安定帯-第1砂丘前面の植物(2)
  - ㉔半安定帯-第1砂丘背面の植物
  - ㉕安定帯-第2砂丘前面の植物
  - ㉖安定帯-第2砂丘背面の植物(海岸林)
  - ㉗クラフトコーナー(休止)
- ※休止…新型コロナウイルス感染拡大防止のため

## 1. 常設展示の維持管理

年度目標	現状の展示物に対するこまめな修繕・補修。アクションプランの作成に合わせて、内容の見直し、課題出し抽出
------	--

石狩浜の成り立ちや、海浜植物保護の歩み、海浜植物の生態的な特徴について必要事項を展示しています。経年劣化による軽微な破損は日常的に都度修理し、来館者に対し保護センターの基礎的な情報を伝えています。次年度以降は見直しも検討していきます。



展示室

## 2. フィールドマップ、開花情報の情報更新

年度目標	調査写真や、観察園の開花情報、観察園の様子などを随時更新 (目安として月に1度)
------	---

野外調査へ出たときに、風景や状況などを記録したものをフィールドマップとして更新しました。その他、保護センターの開花状況も小まめに更新し、観察園への誘導と記録を促しました。開館前の雪解けの状況から海浜植物の開花を中心に撮影し、より新しい情報は観察園みどころボードに展示し、年間を通した観察園の開花状況を発信しました。フィールドマップについては更新が限定されるため次年度以降見直しをします。



フィールドマップと開花情報の更新

## 3. 調査研究報告、学習報告等の掲示

年度目標	年間1～2団体から、石狩浜に関する研究内容のポスターを掲示する
------	---------------------------------

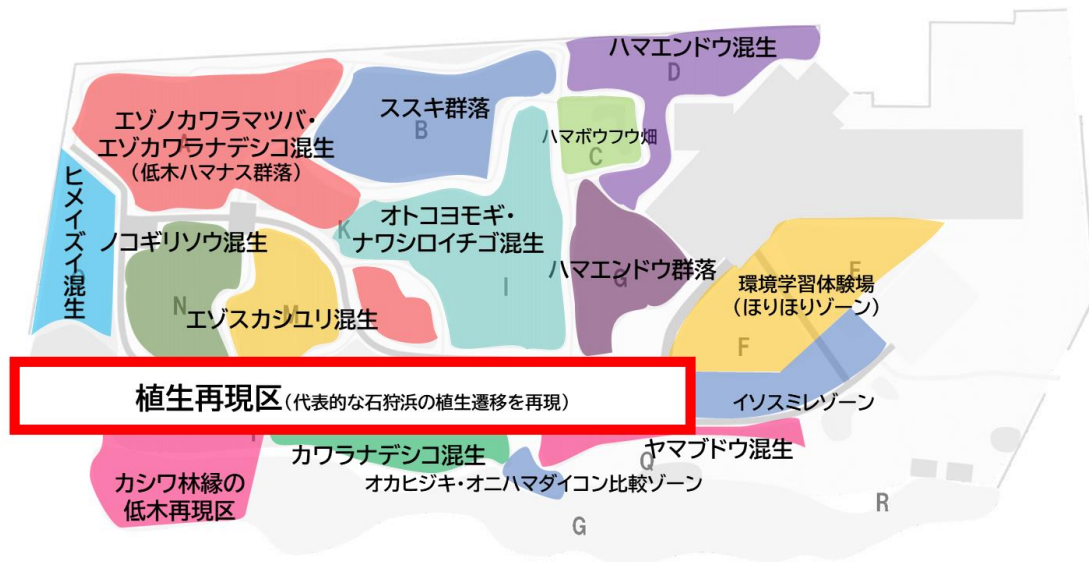
8月10日(水)から地方独立行政法人 北海道立総合研究機構による「劣化した海岸草原の再生に関する研究」についてのポスターを展示しました。令和2年度より内陸植物の侵入が海浜植物群落の種組成と繁殖へもたらす影響について研究をしており、専門的な研究について知る機会を増やすため、学術目線からの自然の状態や課題に対する取り組みについて発信しました。

## ②観察園

観察園は、開館当初からの目的に合った「代表的な石狩浜の植物を観察園内で見られ、海浜植物の特徴を体験できる場所」を目指し、観察園内をいくつかの区分けをして管理しています。

石狩浜の代表的な植生が見られる場所の植生データをもとに、再現を目指して管理しています（図：植生整地コンセプト参照）。特に中央部分に設定している植生再現区は波打ち際の後浜から天然生カシワ林である海岸林までの植生遷移を再現しています。また、海浜植物の特徴的な生態である地下茎や根が長くなるという点について観察ができるように、ほりほりゾーンを設置しています。

項目	目的
1. 園路および表札の整備・維持管理	来館者の安全に、海浜植物を見学できるような整備の維持と、展示と連携して来館者が個々に観察できるような必要最低限のサイン設置。
2. ゾーンの目的に沿った植生維持管理	<p>【全体】</p> <p>現地の植生調査をもとに、展示内容と連動した植生遷移をコンパクトに再現。その他、海浜植物の育成手法について知見の蓄積。</p> <p>【再現区】</p> <p>外来種の少なかったデータを参考に後浜からカシワ林までの再現。</p>



※混生とある区画についてはハマナス群落が主体として管理

図：植生整地コンセプト

## 1. 園路および表札の整備・維持管理

年度目標	観察に適した施設の維持管理。必要に応じた修繕の依頼。最低限のサインの表示
------	--------------------------------------

常設展示と連動して観察ができるように案内標識や植物プレートを添えています。多くなると景観にそぐわなくなることもあるため、最低限の表示を心がけています。

令和3年の秋より観察園内ではドクガの発生が多発し、来館者への対応のため小まめな見回りと看板の掲示に取り組み、来館者のより快適な利用を心がけました。



写真：入口前の開花情報と植物プレート

## 2. ゾーンの目的に沿った植生維持管理

年度目標	全体/見本植生区のデータを参考に植生を近づける。必要に応じた外来種、内陸性植物の除去。「ほりほりゾーン」の利用促進。 再現区/小まめな外来種、内陸性植物の除去。
------	---

令和4年度については、日常的に再現区を中心に外来種の除去、自生地に合わせた間引き、移植などをしました。また、翌年のハマナスの状態を加味した古枝の選定や、外来種除去のために表土を剥ぎ取りました。その他、自生地の再現や展示等での情報蓄積のためのデータ収集にも取り組みました。(Ⅱ. 生物多様性の保全・データの蓄積参照)

また、湿地植物の生育状態があまり良くない状態が見られたこと、現地の状況との乖離が見られたことから、冬季閉館後に抜本的な植物の掘起こし、配置の整理をしました。引き続き現地データをもとに、それぞれの生態に合った手法を模索していくと共に、維持管理手法の知見を蓄積していきます。



写真：湿地エリアと再現区の整備様子

### ③ハマナス再生園

ハマナス再生園は「ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生すること」を目的とした「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」の一環で整備しています。再生園の役割は、ハマナス彩る砂丘の風景の再現をするための試験地であり、地域住民を交えた管理の検討、環境学習利用や民間企業による商品開発といった幅広い活動を支える基盤となっています。

項目	目的
1. 体験学習やイベントを想定したハマナス再生園の整備・維持管理	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの再生事業の一環として、ハマナスの生育手法及び、効果的な維持管理手法の検討。その他、市民活動を盛り込んだ維持管理手法の実施と継続。
2. 市民参加によるハマナス再生園維持管理「ハマナス Healthy タイム」の内容充実(ミニレクチャー・ポストカード配布等)	



写真：ハマナス再生園

#### 1. 体験学習やイベントを想定したハマナス再生園の整備・維持管理

年度目標	環境の整備・再生園の維持管理（委託業務）・ハマナス協議会と連携した事業の展開
------	--

令和4年度は、昨年度に引き続き合同会社いしかり植物ラボに委託をし、ハマナス再生園の維持管理及びイベント等の実施をしました。



写真：ハマナスの苗植え体験の様子

2. 市民参加によるハマナス再生園維持管理「ハマナス Healthy タイム」の内容充実（ミニレクチャー・ポストカード配布等）

年度目標	市民参加型で普及啓発と維持管理を引き続き実施（委託業務）
------	------------------------------

ハマナス再生園の維持管理を参加型で進める取り組みとして、今年度も「ハマナス Healthy タイム」を実施し、ハマナス再生園の除草作業や移植作業など、市内外の方々にはハマナス再生作業へご参加いただきました。

令和4年度は石狩市民カレッジの連携講座として開催いたしました。参加者と内容は表のとおりです。全7回で延べ47人の皆様にご協力いただきました。また、終了後は昨年度から引き続き実施している「ハマナスこぼなしシリーズ」を配布しました。リピートされて参加していただく方が多く、定着したイベントとなって来ました。

表：ハマナス Healthy タイム実施状況

開催日	参加人数（人）	内容
5月12日	3	苗の移植
5月26日	3	除草作業（根際の外来種など）
6月9日	6	除草作業（根際の外来種など）
7月14日	8	除草作業（根際の外来種など）
8月25日	6	除草作業（チガヤ根茎掘り取り）
9月8日	8	苗移植、外来種除草
9月25日	6	苗の移植
10月13日	7	播種



写真：ヘルシータイム様子



図：ハマナスこぼなしシリーズ

④環境学習

項目	目的
1. 事前学習の補助	市内教育機関からの依頼が多様化していることから、学習の目的と所用時間を設定し、アクティブラーニングを主体とした石狩浜の授業内容の構築。
2. ワークシート・体験プログラムの構築	

1. 事前学習の補助

2. ワークシート・体験プログラムの構築

年度目標	継続、新規団体が参加しやすいように積極的な周知の実施。昨年度の反省を反映した取り組みの実施。
------	--

昨年度の実施を踏まえワークシートの見直した上で、受け入れから実施、振り返りをしました。今年度は学校によって時間の配分が異なり、依頼を受けた実施時間と季節から学べる内容を固定化することでより実施しやすい体制づくりができました。次年度以降は実施時間と季節から学べる内容のプログラムを提示して、より参加しやすい、学びやすい体制を構築していきます。

表：今年度の教育機関受入れ一覧

実施日	教育機関	学年	テーマ/内容	人数
6月29日	緑苑台小学校	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナス再生園について	57
7月7日	紅南小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	46
7月8日	石狩八幡小学校	5年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ほりほり体験	17
7月13日 7月15日	花川小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ほりほり体験 ・ハマナスの観察	42
7月20日	花川北陽 認定こども園	年長	ハマナスの植え替え	36
8月23日	厚田学園	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	4
8月29日	生振小学校	1・2年生	海浜植物について ハマナスの実摘み	21
9月9日	石狩中学校	1年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 海辺にあつまるもの調べてみよう！ ・漂着物からつながりを考える	18
9月14日	石狩八幡小学校	5年生	海辺にあつまるもの調べてみよう！ ・漂着物からつながりを考える	17
9月21日 9月26日 9月30日	南線小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ほりほり体験	153
利用件数（のべ）				9
環境学習受入れ人数（のべ）				411



写真：環境学習様子

### ⑤来館者のニーズ、意識把握

項目	目的
1. アンケートの実施	来館者からの意見を聞く機会の創出。

#### 1. アンケートの実施

年度目標	来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。
------	------------------------------

令和4年度の有効回答枚数は52枚でした。回答の内訳は下記のとおりです。

問1. お住まいについて伺います。(53件)

1. 石狩市 (6)	2. 札幌市 (30)	3. 道内 (9)	4. 道外 (6)	不明 (2)
------------	-------------	-----------	-----------	--------

問2. 年代 (55人)

20歳未満 (12)	20代 (2)	30代 (3)	40代 (10)	50代 (8)	60歳以上 (20)
---------------	------------	------------	-------------	------------	---------------

問3-1. 当センターのご利用に関して (51件)

はじめて (36)	数年に1回 (7)	年に1 (2)	年に2回以上 (6)	その他 (0)
-----------	-----------	---------	------------	---------

問3-2. 来館目的を教えてください。(複数回答可/73件)

1. なんとなく入ってみた (10)	2. 休憩・トイレ (6)
3. 開花情報を知るため (9)	4. 石狩浜の自然を知るため (25)
5. 保護活動について知るため (4)	6. 当センターのイベントへの参加 (2)
7. 観光 (6)	
8. その他 (スタンプラリー/ヘルシータイムのついで/以前から気になっていたポイント/鳥を見るため/黄金伝説謎解きイベント/ハマナスの丘公園で見たので) (11)	



問3-3. 当センターをお知りになったきっかけを教えてください (54 件)

1. 通りがかり (31)	2. 新聞・雑誌 (1)
3. 広報いしかり (5)	4. センターHP (5)
5. 他施設での情報 (3)	
6. その他 (以前に来たことがあるので/黄金伝説謎解きイベント/社会見学/家族の情報) (9)	

問4. 当センターをご利用になって面白かったり、興味深いと感じた展示や活動はありましたか。(103 件)

1. 特になかった (1)	2. 季節の自然情報 (20)
3. 石狩浜の自然に関する展示 (34)	4. 観察園 (27)
5. 石狩浜ハマナス再生プロジェクト・ハマナス再生園 (16)	
6. その他 (ほりほりゾーン/ハマナスやハマボウフウ等の生態系の説明/貝の種類) (5)	

問5. 館内の展示について (40 件)

1. むずかしい (0)	2. ややむずかしい (1)
3. ふつう (3)	4. まあまあわかりやすい (11)
5. わかりやすい (25)	

問6. 当センターを、また利用したいと思いますか。(40 件)

1. まったく思わない (0)	2. あまり思わない (0)
3. どっちともいえない (5)	4. ややそう思う (13)
5. そう思う (22)	

問7. 次のうち、参加したいと思うイベントやボランティア活動はありますか。(63 件)

1. 参加したいとは思わない (8)	2. 自然観察会 (17)
3. 石狩浜の自然や海浜植物の保全に関する講演会 (5)	4. ハマナスヘルシータイム (3)
5. はまなす育成サポーター (3)	6. 石狩灯台周辺の景観維持のための除草作業 (2)
7. 市民参加で行う植物調査 (10)	8. 外来動物の捕獲・駆除 (5)
9. 石狩浜のゴミ拾い活動 (7)	10. その他 (3)

問8. 当センターへのご意見、期待することなど、ご自由にお書きください。(抜粋)

・家族 4 人そろってしばらくぶりに石狩浜に来て、花など堪能しました。また来たいです。ありがとうございました。

・直近のセンター付近の写真がたくさんあったのがリアルに感じられて楽しかったです

## ⑦情報発信

項目	目的
1. ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、広い層への普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。
2. 情報誌の発行	
3. 調査研究等報告会の開催	
4. 近隣施設での情報案内	
5. CISE ネットワーク・館ネットワーク・ その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を主に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。

1. ホームページ維持管理
2. 情報誌の発行
3. 調査研究等報告会の開催
4. 近隣施設での情報案内

年度目標	海浜植物の開花や、保護センターでの出来事を発信。興味を持ってもらうための内容作り。
------	---

令和4年度については、昨年度加えた「保護センターの海浜植物日記2022」を保護センターの観察園見どころボードに合わせて更新しました。また、情報誌「はまぼうふう」については、保護センターの様子や調査など実施したことの報告、保護センターの今後の予定などをお知らせする目的で6月と9月に発行しました。閉館後の振り返りということで2月に発行しています。

交通手段が限られるなか、保護センターへ来られない方も多くいる中でも、石狩浜の状況が分かるように次年度以降も引き続きこまめな更新や情報の発信を心がけていく予定です。



写真：保護センターの海浜植物日記2022と石狩市民図書館展示

## 5. CISE ネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展

年度目標	参加可能な範囲で積極的に協力し、海浜植物・保護センターの認知度向上を図る。
------	---------------------------------------

令和4年度は、一般社団法人ちせが、主催で実施した「石狩湾をもっと知ろう！」CISE ネットワーク連携講座に参加しました。令和元年に作成した石狩湾のトランクキットを活用した、オンラインと現地をつなぐハイブリット型で実施し、現地の石狩浜の様子を見ながらトランクキットの内容について学んでもらいました。

実施日	タイトル	場所
7月30日(土) 7月31日(日)	第1回「石狩湾をもっと知ろう！」CISE ネットワーク連携講座	札幌ドーム 各施設からの中継
10月9日(日)	第2回「石狩湾をもっと知ろう！」CISE ネットワーク連携講座	札幌市中央図書館 各施設からの中継
11月13日(日)	石狩サイエンスフェスティバル	石狩厚田あいろーど
R5年 1月28日(土) 1月29日(日)	CISE サイエンスフェスティバル in チカ・ホ	札幌駅前通地下歩行空間 (チカホ)「北3条交差点 広場(西)」



写真：第2回「石狩湾をもっと知ろう！」CISE ネットワーク連携講座 現地の様子

## Ⅱ. 生物多様性の保全・データの蓄積

### ①現植生・生物相の把握

項目	目的
1. 自生地における見本植生の選定と植生調査（海岸草原保全手法の検討）	観察園のエリアごとの管理に必要な現地情報の収集
2. 観察園・再生園の植生調査（海岸草原保全手法の検討）	見本となる現地植生との比較に必要な情報のモニタリング
3. イソスマレの生育状況把握	イソスマレの生育状況の把握
4. ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握	採取圧や保護区外における生育状況の把握

#### 1. 自生地における見本植生の選定と植生調査（海岸草原保全手法の検討）

#### 2. 観察園・再生園の植生調査（海岸草原保全手法の検討）

年度目標	委託に合わせて調査を実施し、結果から今後の対策に向けて考察する基礎データとする。
------	--

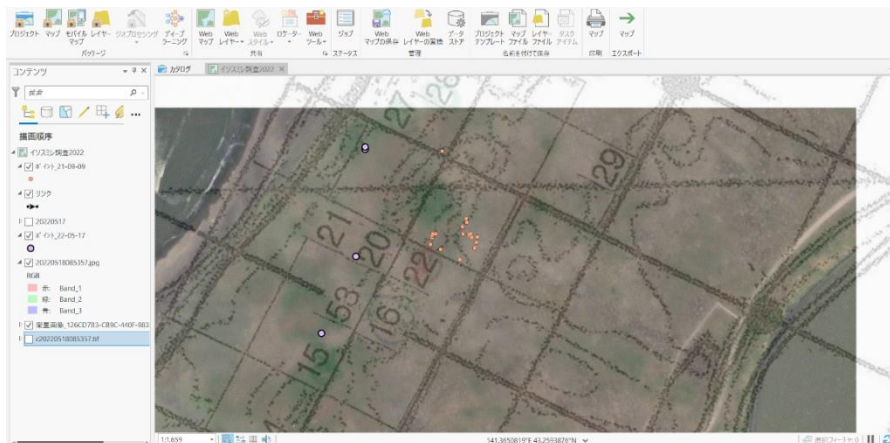
令和4年度は、観察園のゾーンの目的に沿った植生維持管理に合わせて、観察園・再生園及び自生地にモニタリング区を設けて植生調査を実施しました。現地植生の調査区を12か所18区箇所設定し、それらの場所と比較するために観察園の17箇所の調査区と比較できるようにしています。

次年度以降は自生地と比較しながら、観察園の維持に努めつつ、自生地の調査データを野外のデータとして蓄積し続ける予定です。

#### 3. イソスマレの生育状況把握

年度目標	過去の調査や他の調査からのイソスマレの分布をまとめ、生育地をデジタルデータ化していく。
------	---

絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されているイソスマレ群落の分布状況と状況把握をするため、令和3年度に引き続き群落構成種、植物高、植被率、分布域について記録しました。令和4年度はデータをArcGISにてマッピングし、過去に市民調査で得た情報を地図に落とし込み分布の動きを見られるようにしています。



図：過去の情報と現状のポイントを重ねた情報

#### 4. ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握

年度目標	参加型調査と合わせて現地のデータを比較する。
------	------------------------

保護地区内外におけるハマボウフウの生育状況を把握するため、河口地区1か所、弁天地区1か所、親船地区1か所、親船地区外2か所、知津狩浜1か所の6か所で、20m×20mの方形区内のハマボウフウの株径15cm以上の株数、開花状況、および群落構成種を記録しました。弁天地区では、ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査（Ⅲ. 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる参照）も合わせて企画・実施しました。



写真：群落構成種を記録している様子

#### ②植生管理に係る手法の検証

項目	目的
1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力	海浜植生の再生手法の検討（主催：道総研）
2. ハマナス再生園・観察園における自生地植生再現及び効果的維持管理手法の検証（海岸草原保全手法の検討）	自生地の状況を踏まえて、より自然に近い状態で維持できるような管理手法の検討。

#### 1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力

年度目標	昨年同様目標区の調査を実施。
------	----------------

令和2年から実施している地方独立行政法人北海道立総合研究機構が主体となって実施している調査の植生モニタリング調査の協力をしました。

調査概要としては、海浜植物群落や原生花園を維持・再生するための手法を検討するために、聚富原生花園および海側の砂丘草原において、内陸性植物の侵入が著しい地点に、表土を剥ぎ取る「掘取区」、掘り取った土を積み上げる「盛土区」、処理を施さない「対象区」、内陸性植物の侵入がほとんどない地点に「再生目標区」を設置。処理後の植生回復過程の把握や再生目標区のモニタリング等、植生調査を実施しました。

（調査期間：令和2～4年度）

## 2. ハマナス再生園・観察園における自生地植生再現及び効果的維持管理手法の検証（海岸草原保全手法の検討）

年度目標	自生地との環境の違いも考慮しながら、海浜植物の特徴を生かした植生維持の手法を検討する。
------	---

現植生・生物相の把握における「自生地における見本植生の選定と植生調査」及び「観察園・再生園の植生調査」で得たデータをもとに、構成種の植被率等を踏まえ、今年度からはエゾカワラナデシコやエゾカワラマツバなど、自生地でハマナスと混生して生育する種についても、播種及び移植を行いました。

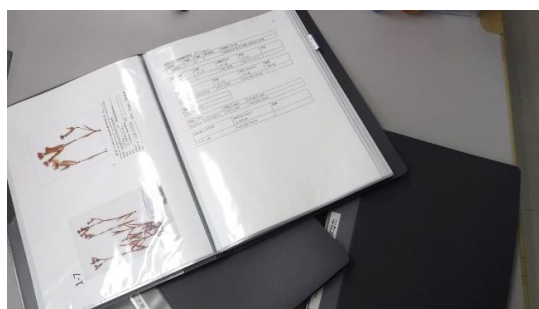
### ③資料・データの集約・管理

項目	目的
1. 標本・調査記録・自然情報にかかわる収集・管理	センターに保管している標本の維持管理 調査の記録や報告書の集約

#### 1. 標本・調査記録・自然情報にかかわる収集・管理

年度目標	保護センターの施設状況に合わせた状態維持。
------	-----------------------

本年度は昨年に引き続き保護センターの日常業務として湿度・温度の管理をチェックし、必要に応じて除湿剤等を追加して状態の維持を管理しました。冬季閉館後には全ての防虫剤の取り換えと状態の確認作業を行いました。



写真：標本の一部

### ④外来種対策

項目	目的
1. 生育状況把握、範囲・手法の検討、対策実施	石狩浜の環境変化等の状況把握

#### 1. 生育状況把握、範囲・手法の検討、対策実施

年度目標	他部署との連携した情報の共有と、モニタリング調査のデータから新しい情報の収集、必要に応じた対策の実施
------	--

環境課事業として実施している北海道指定外来種アズマヒキガエルの防除事業での成果を保護センターでも掲示することで、情報の発信を強化しました。その他、石狩振

興局より聚富地区に生育していたエニシダの防除依頼があり駆除しました（北海道ブルーリスト掲載種）。



写真：センター掲示の様子

### ⑤保護地区の利用状況把握・監視・啓発・維持管理

項目	目的
1. 車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	海浜植物等保護地区の維持管理
2. 単管柵の維持管理	
3. はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	公園（観光地）としての景観保全

#### 1. 車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕

#### 2. 単管柵の維持管理

年度目標	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度立案・実践する。
------	--------------------------------------

海浜植物等保護地区監視業務にて必要に応じた看板の設置や、保護柵の修繕を実施しました。また、例年通り委託業務にて親船地区（一部）の保護柵修繕も継続しています。



写真：親船地区ロープ修理後の様子

#### 3. はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理

年度目標	アクションプランの考え方に合わせて、他部署に渡る情報の共有と対策を考える
------	--------------------------------------

今年度については、監視員業務内で木道周辺の外来種（ニセアカシア）や、景観の妨げになるアキグミやススキの刈り払いを実施しました。

### Ⅲ. 地域資源として持続的利活用に向けた基盤をつくる

#### ①ふれあい地区のルールの普及

項目	目的
1. ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査	ふれあい地区の本来の意味である持続可能な活用を目指すために、地元を中心に海浜植物や自然とのふれあいを進める。

#### 1. ハマボウフウの生育状況調査と連動した啓発型参加型調査

年度目標	ハマボウフウを基軸に、伝統文化の継承とふれあい地区そのものについて普及啓発。
------	--

今年度はうみいく主催、保護センター共催で親子向けに春と夏にそれぞれイベントを実施しました。春はハマボウフウの自生している様子を観察し、実際に採取して試食しました。夏は、春に採ったハマボウフウの生育状況を再び観察し、保護センターの観察園（ほりほりゾーン）にて根の観察をしました。地元向けのイベントを続けることで、ハマボウフウの食利用を通じた海浜植物とのふれあいの場を継続していきます。



写真：ハマボウフウ観察の様子

**5月14日(土)**  
**親子で学ぶハマボウフウ講座**

ハマボウフウという海辺に生える植物。知ってますか？止薬として絶産でよく食べられていました。今回は、ハマボウフウも採取し、食べる帯を通して、ハマボウフウが育つ環境や石狩浜の自然について学ぶ体験型の講座です。※7月18日同僚学芸の講座との2回連続です。

**うみいく**  
うみいくは、石狩浜で親子向けに自然観察講座とビーチクリーンを行っています。毎月1回開催、季節に合わせてプログラムを実施しています。受講人数無制限。  
HP: <https://umiku.jmdcstb.com>

集合：9：20 石狩浜海浜植物保護センター（石狩市井ノ町4-8-1）※無料駐車場有り  
解散：12：00予定 参加費：1人700円  
対象：5歳以上の子どもとその保護者  
定員：25名  
持ち物：外を歩ける服装、飲み物、軍手、長靴、タオル（ハンカチ）、袋  
主催：うみいく  
共催：石狩浜海浜植物保護センター  
申込：umiku.211@gmail.com  
※変更により中止の場合は、5月15日(日)に日程変更

※このイベントは、「石狩市文化振興財団」が主催を担い、実施いたします。

図：イベント募集チラシ



## ②ハマナス再生園の利活用

項目	目的
1. ハマナスを活用した普及啓発	石狩浜ハマナス再生プロジェクトの普及・啓発事業の一環として、ハマナス再生園のハマナスを活用した石狩浜の自然環境のPR、持続的可能な利用と保全を目指す。

## ○ハマナスを活用した普及啓発

年度目標	花卉・果実の利活用による、石狩浜のPR、普及啓発。
------	---------------------------

今年度は石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会主催のはまなすフェスティバルを3年ぶりに開催することができました。今回は親子向けの企画を作り、親子でハマナスの花を摘む様子が見られました。



写真：第10回はまなすフェスティバルの様子

「いしかり本町灯台とハマナス Day2022 ～石狩灯台130周年記念～」連携イベント

2022

# 第10回 はまなすフェスティバル

※当日は必ず  
外来種物をぬきとって

## 6月11日

10時～14時

**石狩浜海浜植物保護センター (弁天町48-1)**

(申込不要)

- ♥ ハマナスの花つみ体験
- ♥ ハマナスの蒸留実演  
～水が香る不思議～11:30～12:30
- ♥ ハマナスなぞときクイズ
- ♥ ブースめぐりスタンプラリー
- ♥ ハマナスカフェ&雑貨販売
- ♥ ハマナスサロン ～ハマナスでリラックスタイム～

**花つみ体験について**

- ・花が咲かない箇所は参加できません。
- ・整理券をお取りする場合がございます。
- ・花びらの採取量はおひとり10g程度です。
- ・花のみは、外来種物のみとさせていただきます。
- ・つみかごは必ずお持ち帰りいただけます。
- ・花つみは、開花の状況によって終了がございます。
- ・花がつかなくなった時点で終了です。

**ご来場にあたってお願い・お知らせ**

- ・マスクの着用など、感染症対策にご協力ください。
- ・駐車場は海水浴場駐車場をご利用ください。(無料)
- ・マイバッグ持参、ゴミのお持ち帰りにご協力ください。
- ・販売ブースは商品がなくなり次第終了します。
- ・出店の内容は変更になる場合がございます。
- ・雨天時は一部体験ブースを中止します。
- ・感染症の拡大防止を徹底させていただきます。ご来場の際は必ずマスクを着用して参拝をお願いします。

【お菓子販売】 ななや、バコパコム、クラフティ、和洋菓子ななや、パン菓子工房(ペーパージュアニー)、縁野園芸、セントモニカ、ラ・テール、アムール、エンジェル・ジュエル(和)、Salon de YAKU ほか

※本場は、自給自足型観光地(観光地)と認定され、観光客の誘致を目的として整備されています。

主催 石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会

共催 石狩浜海浜植物保護センター (石狩市)

お問合せ 宛事務局 メール:ishikarihamanasu@gmail.com

LOVE ISHIKARI COAST with HAMANASU

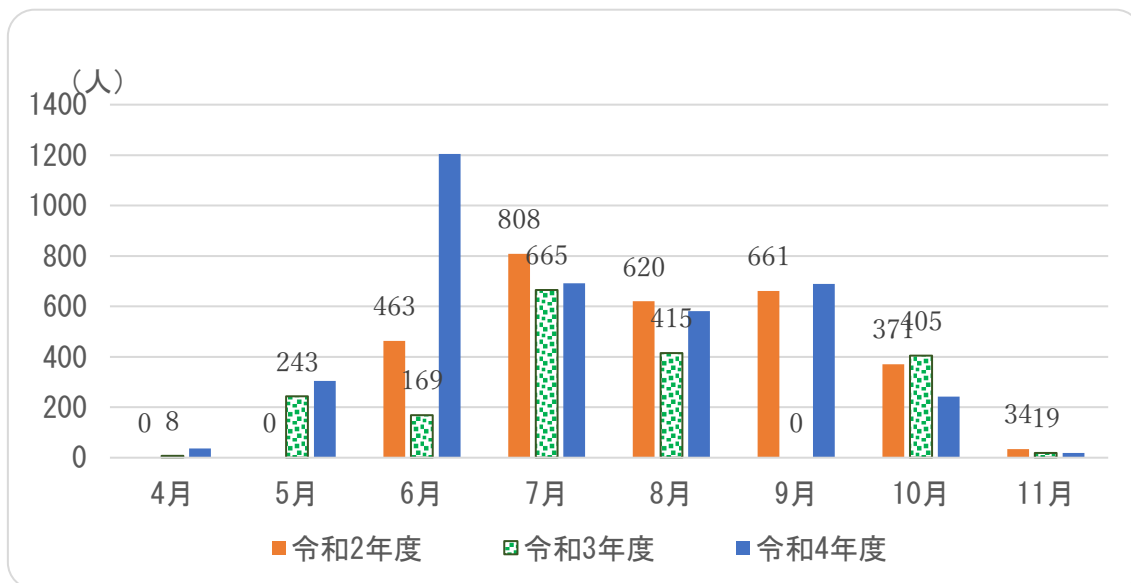
図：はまなすフェスティバル案内チラシ

## 利用状況

### (1) 年度別にみる来館者数の比較

令和4年度の開館期間中の来館者数は3,768人でした。令和2年度・令和3年度・令和4年度の来館者数の月変化と年度比較、平成12年度からの来館者数の年変化は、以下のグラフに示したとおりです（表令和2年度・令和3年度・令和4年度の来館者数の月変化と年度比較、平成12年度～令和4年度の来館者数の年変化）。

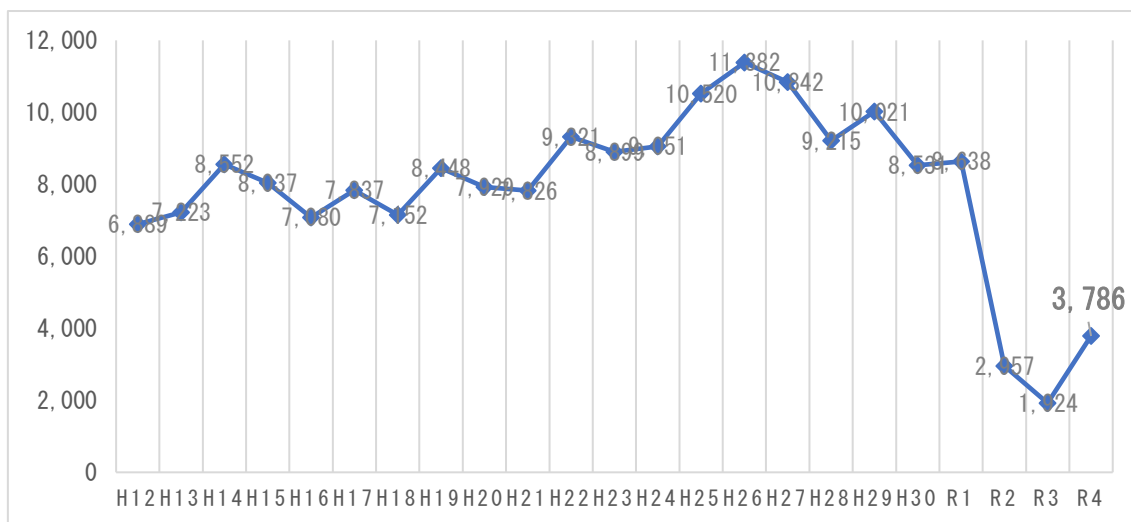
表：令和2年度・令和3年度・令和4年度の来館者数の月変化と年度比較



※R2. 4. 29～R2. 6. 7 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

※R3. 5. 16～R3. 6. 20、R3. 8. 27～R3. 9. 30 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

表：平成12年度～令和4年度の来館者数の年変化



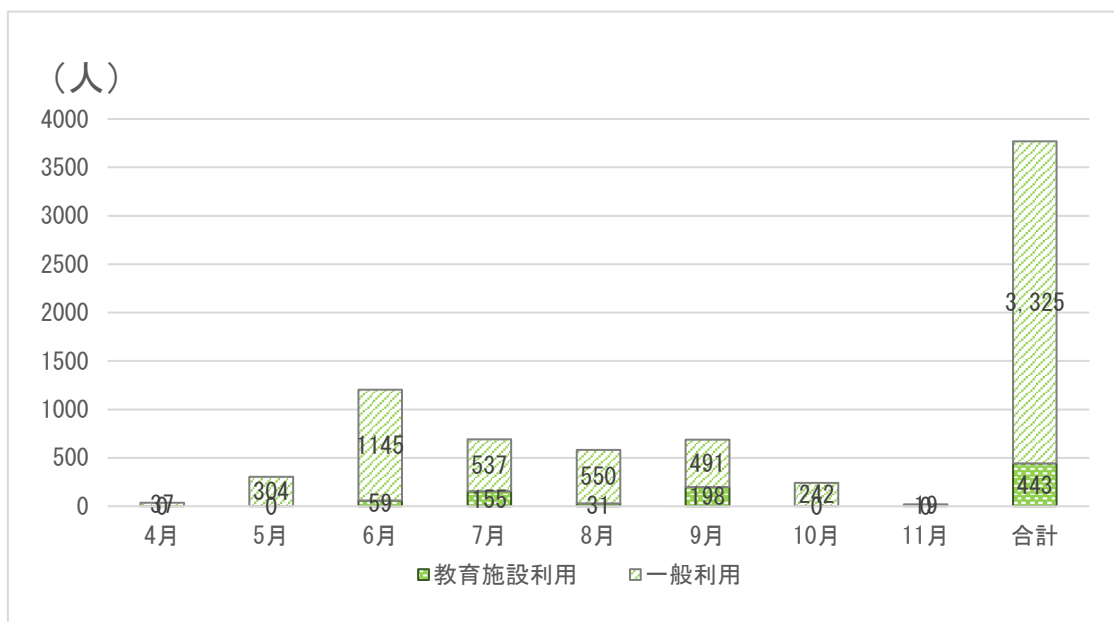
※R2. 4. 29～R2. 6. 7 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

※R3. 5. 16～R3. 6. 20、R3. 8. 27～R3. 9. 30 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

## (2) 利用目的と来館者内訳

令和4年度の来館者数の内訳として、一般来館者と教育施設利用者との人数の割合をグラフに示しました（表：令和4年度の来館者数の内訳）。

表：令和4年度の来館者数の内訳



### 4-2 施設利用（団体）

団体施設利用の状況では、モニターツアーや講座等による7団体の利用がありました。（教育機関の団体利用は、15 ページ表：今年度の教育機関受入れ一覧参照）

表：令和4年度石狩浜海浜植物保護センター団体利用状況

	利用日	団体名	利用人数
1	5月25日（水）	道新文化センター	20人
2	6月1日（水）	道新文化センター	10人
3	6月13日（月）	うみいく	10人
4	6月19日（日）	北広島森のクラブ	17人
5	6月22日（水）	エコネットワーク	7人
6	6月24日（金）	はまなすツアー	20人
7	7月28日（木）	夢の木プロジェクト	6人
8	10月14日（金）	ATWS プレツァー 『石狩の自然、歴史、鮭文化をサイクリングで体感』	12人

## 調査報告一覧

石狩浜海浜植物保護センターが発行した調査報告は以下の通りです。

### ≪「石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告」一覧≫

	タイトル	号数	刊行年	発行
1	石狩浜における植生モニタリング区の設置と14年間の植生変化（2002年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告）	第1号	2006	石狩浜海浜植物保護センター
2	石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況（2003年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告）	第2号	2006	石狩浜海浜植物保護センター
3	石狩海岸林の植生概要（2004年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告）	第3号	2006	石狩浜海浜植物保護センター
4	石狩浜定期観察による植物開花状況の記録（2004/2005）	第4号	2006	石狩浜海浜植物保護センター
5	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録（2006）	第5号	2009	石狩浜海浜植物保護センター
6	聚富海岸の植生概況	第6号	2009	石狩浜海浜植物保護センター
7	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録（2007）	第7号	2009	石狩浜海浜植物保護センター
8	1989年以降に記録された石狩浜の植物種リスト	第8号	2009	石狩浜海浜植物保護センター
9	2008年から2010年の石狩浜定期観察による植物開花状況等の記録	第9号	2012	石狩浜海浜植物保護センター
10	石狩川河口部砂嘴における植生分布の変化	第10号	2012	石狩浜海浜植物保護センター
11	石狩川河口右岸地区におけるイソスミレの探索結果	第11号	2022	石狩浜海浜植物保護センター
12	石狩浜のハマボウフウの生育状況の地区別比較	第12号	2022	石狩浜海浜植物保護センター

石狩市が発行した石狩浜に係る自然調査報告は以下のとおりです。

《植生に関する調査報告》

	タイトル	刊行年	発行
1	石狩湾新港地域海浜植生調査報告書 ／別図（植生分布図）	1976	石狩町
2	石狩海浜地区植生調査委託業務	1989	石狩町・日本データサービス
3	石狩川河口地域植物調査報告書	1989	石狩町
4	石狩川河口地域植物調査追加報告書	1990	石狩町
5	石狩町植生概況調査報告書	1996	石狩町・石狩町緑化推進協議会

《野鳥に関する調査報告》

	タイトル	刊行年	発行
1	石狩市野鳥生息概況調査報告書（平成8年度）	1996	石狩市
2	石狩浜の野鳥リスト（1997～2009）	2009	石狩市

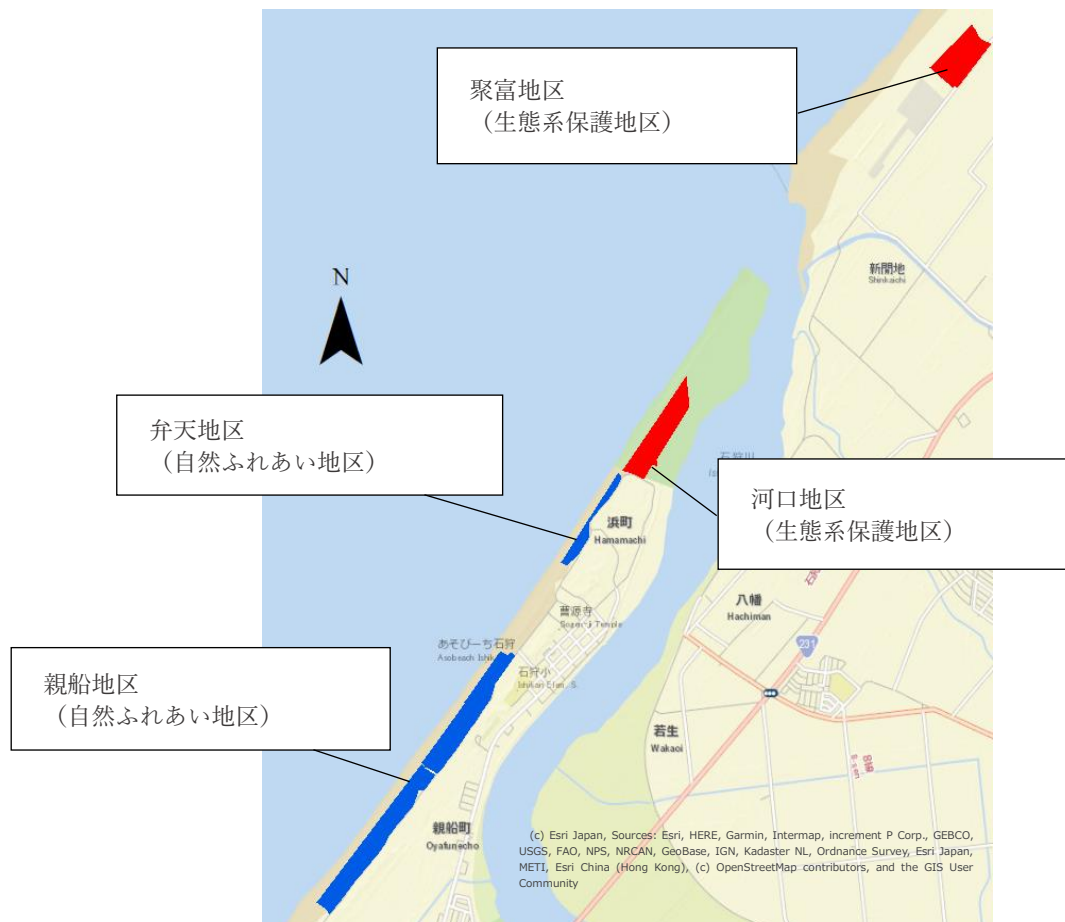
## 海浜植物等保護地区

「石狩市海浜植物等保護条例（平成 12 年 3 月 30 日制定）」に基づき、海浜植物等保護地区を指定しています。

保護地区では、すべての植物採取を禁止している「生態系保護地区」と植生維持に影響のない範囲の採取は認めている「自然ふれあい地区」に区分していますが、いずれも看板や車両侵入防止柵を設置し、海浜環境の保全と利用状況の把握に努めています。また、4 月から 9 月までは監視員を配置し、巡回による監視を行っています。

親船地区西端から石狩湾新港東埠頭東端にかけての延長約 2.6km、約 33.7ha の海岸保全区域については、海岸管理者が植生保護を目的に車乗り入れ防止柵を設置していますが、侵入が後を絶たない状況でした。そのため、海岸管理者等で構成される「石狩浜環境保全連絡会議」では、このエリアについて、柵の補強等の対策に加え、段階的に市条例に基づく保護地区の拡大を図ることが合意されており、平成 30 年 5 月には、条例を一部改正し、「親船地区」を西側へ 1.2km、面積約 15ha を拡大し、保護地区は 54.3ha となりました。

図：海浜植物等保護地区及び車乗り入れ防止柵の設置区域（平成 30 年度末現在）



沿革

## **石狩浜海浜植物保護センター開設の目的**

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に指定されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘の生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な地域となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩浜海浜植物保護センターは、その活動拠点として、平成12年4月に開設されました。

## **施設概要と業務内容**

名称 石狩浜海浜植物保護センター

所在地 石狩市弁天町48番地1 tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146

規模 敷地面積：11,244.1㎡

センター／木造2階建、延床面積：259.5㎡、建物高：10.9m

温室／鉄骨造平屋建、延床面積：42.5㎡

施設は、①海浜植物の保護に係る調査・研究、②石狩浜保全への啓発、を目的としたもので、屋内は、大きく展示室と実験室、屋外は、温室と観察園、再生園に分かれています。

展示の方針は、来館者に海浜植物をはじめとする石狩浜の自然情報の提供や保全活動状況の紹介、作品展示などを行うことができる、更新性を備えた市民参加型の展示としています。また、展示室は研修機能を備え、フィールドと一体となった研修の場を提供しています。

観察園は、石狩浜に生育する海浜植物を一堂に集め、その生態観察の場となっています。また、再生園では、ハマナスを中心とした海浜植物の再生と活用場の場として整備しています。

調査研究機能としては、保全に向けた海浜植物の生態研究のために、実験室、および研究対象植物を育成するために温室が備わっています。また、観察園の一部も、調査・試験区として利用することができます。

以下、保護センターにおける主要業務を示します。

○啓発・普及業務

展示施設・自然観察園・ハマナス再生園の整備・更新

施設見学者への対応

講座・観察会等の開催

市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営

ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整



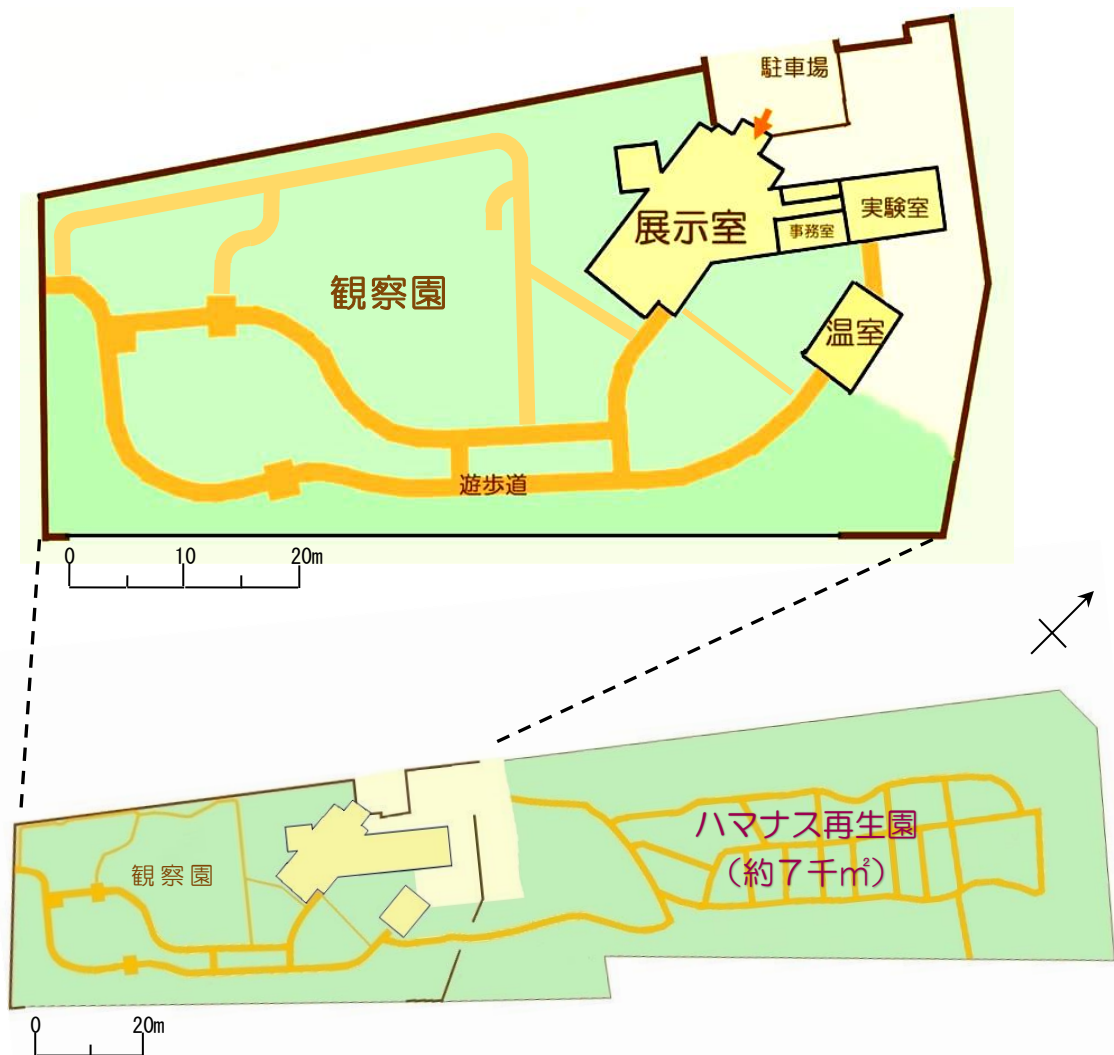
○調査・研究業務

石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査

海浜植生の保全に係る調査研究と実施

海浜植物の保護・保全計画の立案と実施

ボランティアグループの調査研究活動支援



石狩浜海浜植物保護センター施設略図

**石狩浜海浜植物保護センター利用案内**

開館期間 4月29日～11月3日

開館時間 9時～17時

休館日 火曜日（祝日の場合はその翌日）

入館料 無料

駐車場 あり

交通 北海道中央バス「札幌バスターミナル」発

「石狩」行き約60分 「石狩温泉前」下車

徒歩5分

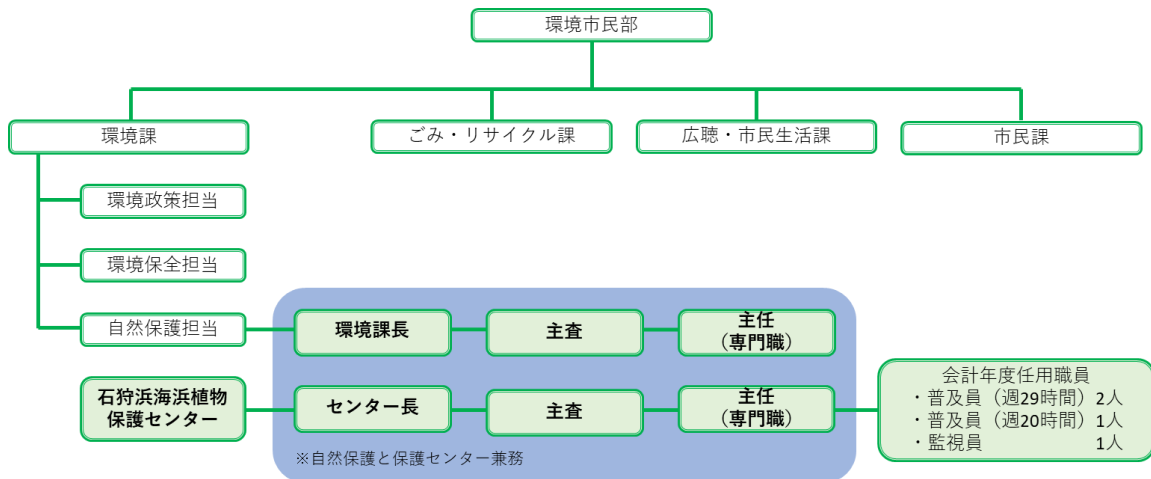


◆石狩浜海浜植物保護センター運営委員会名簿

(第12期：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

会 長	溝 渕 清 彦 (公益財団法人 北海道環境財団)
副会長	更 科 美 帆 (リンクアス)
委 員	西 川 洋 子 (地方独立行政法人 北海道立総合研究機構)
委 員	松 島 肇 (北海道大学大学院農学研究院)
委 員	山 本 亜 生 (小樽市総合博物館)
委 員	宮 本 尚 (特定非営利活動法人 北海道市民環境ネットワーク)
委 員	安 田 秀 司 (いしかりガイドボランティアの会)
委 員	安 田 秀 子 (石狩浜夢の木プロジェクト)
委 員	小 林 卓 也 (公募)

◆職員構成



## 令和4年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書

令和5年4月 発行

発 行 石狩市

編 集 環境市民部石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1

tel. 0133-60-6107 fax. 0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30-2

tel. 0133-72-3269 fax. 0133-75-2275

E-mail [ihama@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp)

HP <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/site/kaihinsyokubutu/index.htm>